

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4471000408
法人名	有限会社 福祉総合ケアハウス
事業所名	グループホームおおたの郷
訪問調査日	平成 21 年 3 月 4 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4471000408
法人名	有限会社 福祉総合ケアハウス
事業所名	グループホーム おおたの郷
所在地	〒879-0901 大分県杵築市大田石丸1392番地 (電話)0978-52-2160

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市顕徳町2丁目1番5号		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	

【情報提供票より】(20年12月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 18年1月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	16人, 非常勤 3人, 常勤換算 17.8人

(2)建物概要

建物構造	木造	1階建
------	----	-----

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円		○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000) 無	有りの場合 償却の有無	有()無 退去時	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	66歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	杵築オレンジ病院・杵築市立山香病院・友岡医院・龍口歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 理念に掲げてあるような自然豊かな立地の中で四季折々の季節の変化とともに、入居者も身近に田植えや、稲刈りなど行事に触れ合うことのできる環境である。
2. 入居前はそれぞれ違った環境、立場で生活していた人たちが今、利用者も職員も家族として培ってきたことを生かしながら、今を大切に生活している。
3. 管理者は近隣地域ネットワークを立ち上げ、情報交換の場を作ったり、近隣の中学校の職場体験や実習の受け入れなどにより、地域密着型としてのサービスを浸透しつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価のねらいや活用方法を全職員が理解するように努めながら、サービスの質の向上に活かしていこうとする努力の後が見られる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員と共に自己評価や外部評価の意義や目的を理解し、評価での課題についてサービスの質の向上に生かしている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されており、家族、市役所担当課職員、地域包括支援センター職員、民生児童委員、施設管理者、運営者の参加があり、地域密着型ホームとしての活発な意見交換が行われサービスの質の向上と事業所の運営に活かされている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「おおたの郷たより」を1ヶ月に1回発行し、各担当職員が近況報告、健康状態及び日頃の生活をスナップ写真と共に月々の請求書と一緒に家族に送付している。又家族からの意見、要望等が出しやすい環境作りを行い運営に反映させている。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会、老人会の活動である神社の清掃活動等に参加し喜ばれている。地域のお祭りや近隣保育園、中学校の四季折々のイベントにも参加し、中学生との交流や研修の受け入れを行っている。又近隣の方々が野菜や花を持って来てくれ、そのお礼に利用者と共に自宅に直接お礼に伺うなどの交流を図っている。</p>
重点項目③	
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの果たしていく役割をふまえ、事業所独自のめざすサービスのあり方を職員一同で話し合い理念として「利用者本意のサービス」「地域の方々との深まる交流」をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関と事務所に掲示、毎日の朝礼時に全職員で唱和し、日々のサービスの提供場面において、理念が反映するよう職員への意識づけを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、自治会や老人会の活動である神社の清掃活動に参加、又地区のお祭りや保育園・中学校のイベントに出席したり、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう積極的に取り組んでいる。地区の中学校の生徒がボランティアとして活動しに来てくれるなど地域との交流がある。	○	ホームの取り組みや認知症に対する考え方、活動の内容など広報誌に載せているが、地域の方々に多く知ってもらうためにも回覧等と一緒に配布するなどの取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者、職員は、評価の意義や目的を理解し積極的に自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し、進捗状況や成果を確認、サービスの質の確保に活かしている姿勢が見られる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議には、利用者、家族、地域住民、民生児童委員、地域包括支援センターや行政の職員等幅の広い立場の人が参加し、外部評価の結果の改善検討・地域活動・各委員会の運営報告等について協議し、運営推進会議と評価を結びつけ、質の確保を図る努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員会には、市町村担当者が必ず出席し、考え方や実態を共有している。又、近隣地域のネットワーク協議会を通じて市町村担当者と接点を持ち、課題解決を図っていく取り組みを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の事業所での暮らしぶりや、行事等で撮った写真、近況報告などをそえて請求書と一緒にきめ細かくご家族へ報告している。心身の変化などがあつた場合には電話連絡にて報告し対応している。その都度、支援経過記録に記録を残している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のおおたの郷たよりを家族へ送付する際に、要望書を同封し安心して意見等を表せる機会づくりに努めている。又、その意見や苦情の発生要因を探り、運営に反映するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係を保つことを重視しており、職員の異動は最小限に抑える努力をしている。やむを得ない異動の場合も、顔見知りの関係ができており大きな混乱はない。新しい職員の場合は、食事作りや、おやつ作りなどから仲良くなり、少しずつコミュニケーションをとりながら、馴染みの関係作りに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一律の研修計画でなく、職員と十分話し合いながら段階的・計画的な年間の研修計画を作成し、介護技術の向上のための取り組みを行っている。全体会議の中で研修内容を報告する機会を作り、職員の育成につなげている。新人研修のレポートや記録も完備されている。	○	限られた職員体制の中で研修機会を確保するのは運営面での工夫が必要ですが、さらなる職員の質の確保、向上に向けた育成に期待します。研修の機会については、勤務体制を調整の上業務の一環として勤務時間内での研修参加を望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所が、他法人の事業者との交流や連携の必要性を認識し、昨年3月より開始したネットワーク作りに参画、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な実りのあるネットワークが出来るよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、職員が自宅に訪問したり、本人がサービスの場に徐々に馴染みながら安定的な利用に移っていけるよう配慮している。また以前利用していたサービス提供機関に情報提供を求め、状態の把握に努めている。帰宅願望がある方に対しては家族の協力をいただき電話で説得してもらうなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の人生経験を生かし、出来ることを職員と一緒にやっている。農業を経験した方が多く、野菜作りや漬物、梅干し作りなど、利用者に職員が教わることも多く、お互い様という気持ちや感謝するという関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中、利用者に寄り添い、行動や表情から本人の希望や意向の把握に努めている。「気づきノート」を活用することで、その人の視点に立った暮らしの支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常にモニタリングを行い、日々のミーティング、定期的なサービス担当者会議、気づきノートなども活用しながら本人、家族の思いを反映した個別で具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	「気づきノート」の活用やモニタリング、サービス担当者会議の意見を参考に介護計画の見直しを行っている。又、利用者の身体状況の変化に応じて本人、家族又必要な関係者と話し合い「家族の思い」や職員が感じる「本人の思い」を反映できるような臨機応変に介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の際は必ず馴染みの職員や家族が付き添い、家族が付き添えない場合は、密に連絡をとり経過を報告している。必要に応じて隣接している老人ホームのリハビリ機器を利用し、機能訓練を行っている。又、利用者がホームの裏にある畑で、農作業をする際の見守り支援や、買い物等多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者のかかりつけ医が、事業所の協力医となっている。やむを得ず変わる場合は、あくまでも本人、家族の納得・同意を条件に、かかりつけ医とも連携しながら適切な医療を受けられるように支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者および家族の不安のひとつが、重度化した場合の対応のありかたです。終末期に向けたホーム独自の方針を定め、医療措置の対応についても、かかりつけ医に相談し具体的な内容を相談し助言をしてもらっている。	○	重度化や終末期のあり方について、できるだけ早い時期から本人、家族、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、対応の方針を共有して行くことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れずに接している。利用者本人のプライドや羞恥心を大切に、トイレ誘導等は、耳元で声かけをするなどプライバシーに関わることは周囲に配慮しながら支援をしている。個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止に努め秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に、一日の流れはあるが、利用者の状態や日々の体調に配慮しながら、起床、食事、入浴時間等について、出来るだけ個性のある柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は暮らしの中で重要な位置にあり、喜びや楽しみをもたらします。利用者の能力に応じ調理の下ごしらえ、盛り付けや配膳、後片付けを職員と一緒にやっている。職員と利用者が同じテーブルを囲み、明るい話し声と共に家庭的な雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴の時、声かけを行いながら入浴チェック表を活用、個別にあった入浴の支援を行っている。入浴をいやがる利用者は、清拭や足浴(竹酢)で対応している。又入浴剤や季節に応じてカボス湯等で、入浴の楽しさや興味が得られるよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者と毎日の暮らしを共にする中で、生活歴、能力、状態に応じたレクリエーションを考え、豊かな暮らしを支えるための支援をしている。農業に従事してきた方は、園芸、農作業に携わる活動を多く取り入れ、炊事、洗濯、裁縫(雑巾縫い)等利用者の経験や知識を発揮できる場面作りや働きかけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が、日常的に外出できるように玄関等は施錠していない。短時間でも戸外に出る機会を作り、ドライブや買い物、畑のあぜ道の散歩、又季節に応じてつくし取りやヨモギ摘み等折にふれ外出している。歩行困難な利用者は車椅子を利用し戸外へ出ることを積極的に行っている。又レクリエーションの写真を拡大し共用生活空間であるホールと利用者の各部屋に貼り楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中鍵をかけないでケアをする事をモットーに取り組んでいる。外出や帰宅願望の強い利用者には、外出の気配を見落とさない様見守りの方法を徹底し一緒に行動をしたり、制限をせずに外出できるよう支援し自由な暮らしを支えるように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力体制のもと、年3回の火災訓練を実施している。定期的に、消火器の使用法や緊急連絡網の確認を行い、近隣の消防団の方々の協力がある。全職員が救急救命講習の研修を受講し万が一の災害にも備えている。又、災害に備えて自家発電装置を設置し水や電気の確保ができており、非常用食料も備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握し、地元で出来た野菜などを中心に献立を作っている。ケース記録に、利用者一人ひとりの食事・水分の摂取量、好みを気づきノートに記録し情報を共有している。又、栄養士の栄養バランスのアドバイスやカロリーチェックを行っている。	○	栄養士による献立指導は受けているが、同じ材料の使用が続いているようにある。動きのある利用者にはカロリー量を少し多くしたりと、一人ひとりにあった支援を工夫する事が望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の、共用生活空間である廊下に工作や手芸、四季の風景画などを飾ったり、又利用者自らが季節の漬物を漬けるなど、生活感や季節感を感じ居心地よい場所になるよう配慮している。ホールから見えるウッドデッキでは、一年を通して花や野菜を植え季節を感じることができるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅との違いによる不安やダメージを最小にするための環境作りとして、契約や面会時に本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや馴染みの物を居室に置き、居心地よく過ごせるよう個別に工夫をしている。趣味活動で制作した手芸等を飾ったり、写真もご利用者本人に良く見えるように大きくして飾っている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おおたの郷
(ユニット名)	しらかわ
所在地 (県・市町村名)	大分県杵築市大田石丸1392
記入者名 (管理者)	利光 いよ子
記入日	平成 21年 1月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着の意義を会議等で話し合い、近隣の環境、地域性を活かした理念”豊かな自然に抱かれ・・・地域の方々との心深まる交流”等を掲げて、職員全員で作成した理念を共有し日々の取り組みに活かしている。		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関・事務所に掲げている。朝の朝礼時に職員全員で唱和共有し、日常の介護・地域活動において、理念を基に取り組みを行い、朝のミーティングにて具体的なケアについて話し合っている。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの取り組みや認知症に対する考え方・活動の内容などを面会時や広報誌に載せお伝えしている。広報誌は配布し、地域の方々に理解していただくよう取り組みを行っている。また、近隣の中学校の生徒さんや父兄、教師、老人会での交流で折に触れ説明している。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々から野菜等を頂いた際は、日課の散歩を利用しその方の自宅にお礼の言葉やホームで取れた野菜等を届けに行き交流を図っている。その甲斐あって、気軽にホームを訪れ談話される方が多くなっている。。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会の活動である神社の清掃活動等に参加している。その他、地域のお祭りや、近隣の保育園・中学校の四季折々のイベント等にも参加を行い、年数回中学生がボランティア活動にも来てもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の団体や老人会など、積極的に見学や座談会等の要請を受け入れ、現代の介護に関わる環境・認知症の考え方等の話し合いを行っている。また、近隣の方々が見学した際は、お茶を飲みながら悩み・相談も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義及び評価の改善点は、各会議にて職員全員で確認し話し合いを行っている。改善項目については改善シートを作成し、毎月の会議等でその項目の進捗状況や成果を確認している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、本人や家族、市役所担当職員、包括支援センター職員、民政児童委員、地元地域の方々、施設管理者、運営者の参加で行っている。会議としては、外部評価の評価・改善検討、地域活動報告、各委員会の運営報告などを協議し、意見については職員間で話し合い見直しを行い、サービスの質の向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員が運営推進委員会にはメンバーとして必ず出席しており、近隣地域のネットワーク協議会及び、各金銭管理が必要な方々の処理対応・アドバイス等を受け、質の向上にむけて何でも話し合える関係を築いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の福祉課や民生委員と連携をとり、福祉サービスの援助や日常的な金銭管理、生活保護・身障手続等の必要な家族・ご本人に対し支援・援助を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議時に高齢者虐待防止法に基づく会議をもち、虐待防止に努めている。リスク会議等で虐待等は行われていないか情報交換を行っている。	○	高齢者虐待防止法の周知徹底を図る為朝のミーティング時に話し合い、各自それぞれが理解して、尊厳に向けた取り組みを行っている。またチェックリストを作成して更なる浸透を図り、虐待の早期発見に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事例等も入れながら詳細に、分かり易く説明し納得して頂けるよう対応している。解約を行う際はご家族と十分に話し合い、今後の対応・入所先などの援助協力を行い理解・納得していただけるよう対応している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者に対し生活の中で、言い出しやすい状況を見定め不満・苦情等を聞いている。苦情・意見等があれば早々に管理者等と話し合い対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	おおたの郷たよりを毎月1回発行し、各担当職員が近況報告・健康状態及び日頃の生活をスナップ写真として月々の請求書と一緒に家族に送付している。また、変更事項等がある場合は電話連絡を行い対応している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ便りを送付する際に家族の事業所に対する要望・意見を返信用紙にて聞いている。また、運営推進会議や家族会においても意見を聞き、運営や介護に反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員全体参加の会議を開催し、研修や研修発表等を行い、意見や要望・提案など何事も話し合える場を設け運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月二回、ユニットの代表・管理者・運営者が管理者会議として話し合いをもち、状況の変化・要望・勤務の調整等を協議し対応を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時より職員の異動は少なく、ユニット毎の異動はあるが、利用者との交流があり関係は継続できる体制である。また、新しい職員が入る時も食事作り、おやつ作りなどと一緒にを行い、利用者よりホーム内の事や物の置いてある場所を聞く等の工夫をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験や習熟度等を勘案して、職員とも話し合いながら年間の研修計画表を作成し、各職員の介護技術の向上に活かしている。また、研修後には全体会議にて発表をして報告している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年数回、同業者が参加しての協議会や各職員の研修も頻繁に行い、質の向上を目指し交換研修や交流を持つことにより各同業者が共有して、実りあるネットワーク作りが出来るように取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者や管理者が個々の職員に対し、悩みや各ユニットスタッフ間の状況等を聞く機会を設け、職員同士の人間関係を把握するようにしている。時折親睦の場を設け、運動等気分の転換が図れるように配慮している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、各職員に対し実績や勤務状況を把握し、本人に対し評価・講評を行い、向上心をもてるよう努めている。一人ひとりが目標を持って働けるよう自己評価や目標を決め、面談やアドバイスをを行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前面接時に、ご本人と話し合いをもち、身体の状況・不安・要望などを聴き受けとめ、初期の支援時は不安を解消できるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接時に、ご家族と十分な話し合いを持ち、不安・ホームに求めることを理解して、利用開始後のケアに取り入れている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、出きる限り本人・家族と話し合いをもち、希望や要望を最優先し、必要があれば市役所担当課・包括支援センターや医療機関と連絡を取り対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用が始まる前に家族と一緒に来所していただき、見学や利用者さん達とお茶の時間を一緒に過ごす等、環境になれてから入居するようにしている。また、職員が自宅訪問し、本人の意向を十分に把握するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を通じて、培った事を出きるだけ多く活動(家事・畑仕事等)に取り入れ「昔取った杵柄」で共感できる場面作りに努めている。また、職員は出退勤時、「ただいま」「行って来ます」と不安を与えないような声掛けで出入りし、和やかな生活が出来ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の情報交換や、月一回のお便りに職員が書いた利用者の様子や思い及び写真を添付し、日頃の生活状況を理解していただき協力関係が出来ている。また、行事等への参加も促し、利用者・家族が共感し合える場も築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常的に生じた課題には適時、家族と話し合いをもち一緒に解決できるよう努めている。外出・外泊等利用者の状況を見ながらご家族さんに働きかけを行ったり、本人さんの思いをご家族さんに伝える等交流の働きかけを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等での活動企画には、出来る限り利用者の行きたい場所を聞いたり、故郷方面へ出掛けるようにしている。また、以前生活していた近隣の方々・親戚・知人等が面会に来られ、交流が図れるように働きかけを行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の役割を分担し、食器を洗う人、テーブルを拭く人、お絞りを巻く人等、利用者の心身の状態に応じて、役割を実施してもらうよう心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	各サービス機関との連携がとれるよう家族、各サービス機関担当者との話し合いを必ずもつようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日々の中では行動の説明をしたうえで選択できるような問いかけで、「どうですか？」等の強制的にならないような声かけを心掛けている。また、暮らしの中での行動を把握し、気づきノートを活用し日々の介護に活かしている。	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	利用時、家族や関係者に聞き取りを行い、日常のコミュニケーションを通じて、生活の背景や本人が抱えている思いを探れるよう、傾聴に心掛けている。また、家族の面会等に、家族からも生活背景等を聞けるように家族とのコミュニケーションに努めている。	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	”気づきノート”を通じて、その日の利用者の情報を交換し、その方の行動や活動を把握し、ミーティングの中で利用者の方々が各活動や役割が一日一回は出来るよう、その方の全体像を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画における要望書はもとより、日々のミーティング、サービス担当者会議を定期的に行い、”家族の思い”や職員が感じとる”本人の思い”を反映できるように努めている。	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	気づきノートの活用やサービス担当者会議等により常に変化に応じた介護への取り組みを行っている。入院等の場合は、入院の経過や利用者の状態変化がわかるよう、出来る限り医療機関へ経過説明に参加したり、家族との情報交換に努め適時計画している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	”気づきノート”を通じ、気づいたことや行ったこと、注意する点、薬の変更等を適時、新鮮な情報を毎日交換し合い、計画や実施に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する老人ホームでのリハビリ機器を利用して機能訓練を行ったり、ホーム所有の畑での農作業とできる限り要望を活かし支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員に運営推進会議の参加をしていただき、地域消防団員に緊急時の対応の協力を得ている。利用者の意向で、カラオケを行う際は地域のボランティアの方が参加され楽しく交流がなされている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	会合の参加や機会を設け地域のケアマネージャーと交流し情報を交換している。また、他施設で開催しているイベントや行事等にも参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議でも包括支援センターの方々に参加していただき、話し合いを重ね運営の向上に努めている。個々に必要だと思われる事柄は、支援センターと解決に向け協議し協力を得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の面接や面会時に、利用者・家族の希望を重視し、納得した病院に受診している。長距離になる場合もあり、かかりつけ医と連絡等を取り合いながら、家族も交え適切な医療支援をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の認知症専門医に受診し、状態の変化・急変時は電話にて対応を協議し適切な治療・対応ができるよう協力を得ている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常駐し、利用者・職員からの相談、日頃の状態観察、体調の急変等の対応を行い、必要な事柄はかかりつけ医や家族に連絡して話し合い、適切な支援ができるよう努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、医師からの説明がある際は、家族と共に職員も同席し、情報交換・機能訓練の方針・受け入れに対するの対応準備等を話し合い、早期退院に向け職員間同士でも協議し速やかな退院支援を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けたホーム独自の方針を定め、面会時重度化になっていく対応や処置を家族と話し合っている。受診する際も、かかりつけ医と相談し助言をいただいている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	毎月の管理者会議等で、終末期における当ホームの医療環境や対応能力を協議したり、かかりつけ医や隣接する老人ホーム職員とも相談し合い、普段より家族に対し状態変化の説明を行い、気持ちや考えを聞いて、前向きに終末期に向け検討を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅から当ホームに入居する際は、家族や関係者をお願いして数回遊びに来ていただき、利用者や環境に慣れていただくよう配慮している。また、以前の生活環境、支援の内容や情報を得てその方にあつた環境を提供出来るように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員も日々生活を共に行うと慣れ親しみで、言葉が乱れる事もある為、職員間で注意し合ったり、朝のミーティング時や全体会議等で討議し合い対応している。個々の情報は一冊のファイルに整理し、外部者の目に触れないよう管理している。また、トイレは共有にて名前の配慮をしてパット等色紙等で分ける、ラウンジの椅子も好みの絵で分かるような工夫をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は日頃の生活で、行きたい場所や食べたい物などさりげなく尋ね日頃の活動に活かしている。物事を行う際は、必ず利用者に説明して目的を知り、希望を聞いて納得していただき対応し、変化があればケース記録・気づきノートを利用し職員間で共有している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	トイレ誘導する際も過剰な言葉掛けを避け、日頃の動作を熟知し尿便意の仕草があれば、さりげなく誘導を行っている。食事、入浴回数、時間の希望も取り入れ、個々のペースを考え席順や雰囲気・言葉掛けを考慮し、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的買い物に行き、ご自分で化粧品・洋服・衣類・靴等を選んでいただいて日々のおしゃれを楽しんでもらっている。散髪は、近隣の馴染みのお店にお連れして対応して、普段の生活でも化粧などを勧めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みのメニューを取り入れ料理作りには、個々の能力を把握し、食事準備はできる限り皆さんが協力し携われるよう配慮している。また、中学生の生徒さんや近隣で取れたサツマイモ等その時々で食べたい物を利用者と一緒作り「作る楽しさ」を感じていただいている。食事、職員が各テーブルに着き一緒に食事をして、楽しい雰囲気作りを努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時に本人や家族に嗜好をお聞きし、気づきノートに記入共有し食事やおやつ等で、できる限り取り入れ対応している。四季折々の行事にはお酒等提供して楽しんでいただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・日頃の排泄パターンや動作などのタイミングを気づきノート等に記入して、職員間で共有しトイレ誘導に役立てている。食事後、特に朝食後は、排便のリズムを作るため訴えが無くてもトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日利用者に入浴の声掛けを行い、入浴はチェック表を活用し最終入浴日・状態等を把握できるようにし、体調に応じて”足浴(清拭)”を行っている。季節によりカボス湯にして、香りを楽しんでいただいたり、希望時には入浴剤を使用してリラックスしていただけるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分のリズムで昼寝等を行っていただき、希望があれば遮光カーテンを利用し安眠できるよう配慮している。不眠事は昼間の活動を多くする等の工夫、湯たんぽの提供や利用者と一緒に温かい飲み物を飲んでしばらく一緒に過ごす事などを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域柄、農業や畑仕事に携わってきた方が多く施設内の花壇、所有している畑等を利用し農作業に携われるよう支援を行っている。また、毎日の生活の中で掃除(掃く・拭く) 食事の準備(野菜を揃える・包丁を使い芋の皮をむくなどの下ごしらえ等) おやつ作り、配膳や下膳、洗濯物(干す・たたむ)等各自それぞれが役割を持ち、季節により梅干・ラッキョウ・漬物作りを利用者が中心になり行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員のサポートで金銭管理ができる方は、お小遣い等を持っていただき、お宮参りの賽銭や近隣へのドライブ・買い物等にお連れした際は、ご自身で買い物をしていただくよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から玄関等は施錠しておらず、何時でもご自身の意志で外出できるようにしている。また、職員と車で買い物・畑仕事等にも出かけ、近隣では季節に応じてつくし取り、ヨモギ摘み、わらび、ぜんまい、たけのこ取り等折々にふれ出かけ、飛行場、海や市内(雑めぐり)等のドライブも出かけ、歩けない方も車椅子にて対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族同伴ドライブ旅行の開催や、海での魚釣り、保養施設での演劇鑑賞など個別対応や家族の協力を得て、近隣以外の外出支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ラウンジに電話を置き、何時でも家族や知人と連絡できるように配慮している。ご家族・知人に手紙・はがきを出されるよう支援を行い、またご家族さんより手紙などいただける支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎月のたよりに行事のご案内をお伝えしたり、職員も気軽に訪問者に言葉掛けやお茶お菓子等のおもてなしをさりげなく行い、気軽に訪れる雰囲気づくりを行っている。また、知人・ご家族さん達とゆっくり過ごせるスペースも整えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝の申し送り時、ミーティングを行い入居者の状態・ケアの振り返りや反省、実行するケア・リハビリ等チェックをしながら身体拘束にも注意を払っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々の暮らしの中で鍵をかけない事をモットーにして、外出・帰宅願望のある方たちの気分や状態を把握し、介護者同士の協力により見守りの徹底を図り、外に出ようとされる時はさりげない声かけや一緒に散歩するなど行動の制限をせず、安全面等に配慮して自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員同士で所在の確認を行い、入居者方々の安全な見守りに努め、記録類記入時もラウンジ等にて見守りしやすい位置にて業務を行っている。夜間帯も、居室全体を見渡せる位置にて見守りを行い安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤は手が届かない場所で管理。包丁等の危険物はいつでも使えるが職員の目に届く場所で管理。夜間帯のみ鍵がかかる場所へ。洗剤・ハサミ・裁縫道具等は簡易式の鍵にていつでも利用者が取り出せるようにしているが、職員が気を配り・点検し危険がないように対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、食事の状況・薬の服薬(朝・昼・夕等で薬袋の色分けをしている)・リハビリ(機能向上訓練)に取り組みリスク防止に努めている。また、毎月リスク委員会を実施し、その月に起こったヒヤリハット・事故報告書を基に検討し、必要があれば家族に説明を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力ですべての職員が救急救命講習に参加して学習・訓練を定期的に行っている。また、緊急対応のマニュアルやAED・吸引機等を整備している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回以上、消防署の協力を得て火災避難訓練を実施している。尚、消化器の使用法や緊急時連絡網の確認を定期的に行い、近隣の消防団員の方々にも協力を得ている。また、職員全員が救急救命講習に参加し万が一の対応に備えている。備蓄については、自家発電機により水・電気が確保でき、食料はホーム内にて保持している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時の折りに施設での生活状況、変化等を話し起こり得るリスクについての説明をし、万が一事故発生した時は、電話にてお知らせし相談しながら対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェック等行ない、一人ひとりの変化を知り病院受診時かかりつけ医に報告、相談を行い早期発見につなげ、気づいた事や変化があれば職員間で共有して対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等をコピーして、ケース記録に整理し、変化があれば印や説明を付け加えて体調変化や処方変更がわかるようにしている。毎月の受診時に持参して状態の経過・変化をかかりつけ医に伝え医師の指示を記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	当ホーム所有の田・畑で栽培した野菜を豊富に取り入れた食事(便秘を考慮した)を提供している。便秘気味の方は、冷水・牛乳や寒天・豆乳を取り入れ、腹部のマッサージや散歩を実施し便秘解消に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎月感染委員会を実施し、その中で口腔ケアの対応や状況を話し合い検討し、毎食後、職員が個々に応じた働きかけや介助を行い、就寝前は義歯の洗浄を必ず行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の献立を記録して、個々に応じた食事を提供し(茶碗類は馴染みの物を使用)、個々のケース記録に摂取量(主食・副食)、水分の摂取量・気づきノートに好みを記入し職員間で共有している。また、定期的に栄養士にお願いして栄養バランスやカロリーのチェックも行っている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>保健所・県(高齢者福祉課他)・市より送られてくる情報を考慮して、感染症のマニュアルがあり、毎月の感染委員会で手洗い・うがい等をチェック表にて評価し感染防止や早期発見に努め、面会者や家族に理解をいただき手洗い・うがい等を実施し、インフルエンザ・感染予防等も行っている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>定期的に冷蔵庫の整理、布巾・まな板・鍋類・たわし類・水回り品等を漂白し、衛生が保たれるよう職員間で徹底・実行し、出来ているかをチェック表に記入し毎月の感染委員会で検討を行っている。また、新鮮な野菜はいつもあり、他の物は買い貯めしないようにも努めている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>ホームの表示も最小限に抑え玄関周りに植物を植え、気軽に訪れていただける雰囲気を行っている。尚、ベンチ等を設置しホーム内外でも近隣の方と交流がもてるよう配慮している。面会簿は、一名に対し一枚とし訪問された方のプライバシーを保護し、安心して訪問していただけるよう配慮している。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が工作・手芸等で四季の風景画を作り、季節感が感じられるよう壁面に飾る等の支援や日常生活の中でまな板のリズミカルな音、味噌汁や御飯の炊ける臭い、カボス湯の香りや味を味わい、利用者が季節の漬物を漬ける等五感、季節感が自然に感じられるよう工夫をしている。ウッドデッキを設け、春夏秋冬を心地よく垣間見ることが出来る配慮を行い、近隣も環境が良く不快な音等も無い。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>事務室横のホールに椅子・テーブルを設置して外が眺められ、談話室を設けるなど、誰でもが気軽に利用者同士で談話できるよう配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約・面会時、家族に極力馴染みの物品等を持ってきていただくよう促したり、利用者が趣味活動で制作した手芸等を飾り付けたりし、安心して過ごせるよう努めている。また、職員間でその方の生活歴や日常の会話の中で得た情報も活かし、居室作りに役立っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ等の臭いが発生しやすい場所は入念な清掃をし、換気も屋根に抜ける吹き抜けを設け気配りを行っている。温度調整は利用者の状態により注意をして換気や調整を行い、エアコンに加湿器を併用する等季節を通じて快適に過ごせるよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関はバリアフリーになっており、施設内は利用者の状態を考慮し、適材適所に手すりを設け自立して安全な歩行や入浴・トイレ等が出来るようにしている。和室は、掘りこたつを設け足を曲げなくても利用できる等安全確保と自立への配慮を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには利用者の目線で確認出来るよう明確な文字や目印になり目立つ物を設置し、居室に関しては、のれんや利用者の好きな動物の絵等本人さんの趣味を考慮してご自身のお部屋と認識できるように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの中庭・玄関先には、花壇を設け花や野菜を育てている。ウッドデッキ・玄関先を利用し、四季折々の飾りつけ(門松・クリスマスツリー等..)を入居者と一緒に行い、楽しんで活動できるよう工夫を凝らしている。またそれぞれの場所にはいつでも休め、憩えるよう、いすやベンチを設置している		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑がいっぱいでも何所に行っても自然があふれる中に「グループホームおおたの郷」はあります。自由に散歩や畑仕事・花壇の手入れ等が行え、日常生活の中でも利用者さん中心の活動が行われていて、ホームにはたくさんの笑顔や笑いがあふれています。職員は本当の家族のように利用者さんの気持ちに寄り添い、たくさんの思いをこめてお世話をさせていただいています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おおたの郷
(ユニット名)	しらひげ
所在地 (県・市町村名)	大分県杵築市大田石丸1392
記入者名 (管理者)	渡邊 憲司
記入日	平成 21年 1月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>職員全員で地域密着の意義を会議等で話し合い、近隣の環境、地域性を活かした理念”豊かな自然に抱かれ・・・地域の方々と心深まる交流”等を掲げて、職員全員で作成した理念を共有し日々の取り組みに活かしている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は玄関・事務所に掲げている。朝の朝礼時に職員全員で唱和共有し、日常の介護・地域活動において、理念を基に取り組みを行い、朝のミーティングにて具体的なケアについて話し合っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの取り組みや認知症に対する考え方・活動の内容などを面会時や広報誌に載せお伝えしている。広報誌は配布し、地域の方々に理解していただくよう取り組みを行っている。また、近隣の中学校の生徒さんや父兄、教師、老人会での交流で折に触れ説明している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の方々から野菜等を頂いた際は、日課の散歩を利用しその方の自宅にお礼の言葉やホームで取れた野菜等を届けに行き交流を図っている。その甲斐あって、気軽にホームを訪れ談話される方が多くなっている。。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会・老人会の活動である神社の清掃活動等に参加している。その他、地域のお祭りや、近隣の保育園・中学校の四季折々のイベント等にも参加を行い、年数回中学生がボランティア活動にも来てもらっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の団体や老人会など、積極的に見学や座談会等の要請を受け入れ、現代の介護に関わる環境・認知症の考え方等の話し合いを行っている。また、近隣の方々が見学した際は、お茶を飲みながら悩み・相談も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義及び評価の改善点は、各会議にて職員全員で確認し話し合いを行っている。改善項目については改善シートを作成し、毎月の会議等でその項目の進捗状況や成果を確認している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、本人や家族、市役所担当課職員、包括支援センター職員、民政児童委員、地元地域の方々、施設管理者、運営者の参加で行っている。会議としては、外部評価の評価・改善検討、地域活動報告、各委員会の運営報告などを協議し、意見については職員間で話し合い見直しを行い、サービスの質の向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員が運営推進委員会にはメンバーとして必ず出席しており、近隣地域のネットワーク協議会及び、各金銭管理が必要な方々の処理対応・アドバイス等を受け、質の向上にむけて何でも話し合える関係を築いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の福祉課や民生委員と連携をとり、福祉サービスの援助や日常的な金銭管理、生活保護・身障手続等の必要な家族・ご本人に対し支援・援助を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議時に高齢者虐待防止法に基づく会議をもち、虐待防止に努めている。リスク会議等で虐待等は行われていないか情報交換を行っている。	○	高齢者虐待防止法の周知徹底を図る為朝のミーティング時に話し合い、各自それぞれが理解して、尊厳に向けた取り組みを行っている。またチェックリストを作成して更なる浸透を図り、虐待の早期発見に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は事例等も入れながら詳細に、分かり易く説明し納得して頂けるよう対応している。解約を行う際はご家族と十分に話し合い、今後の対応・入所先などの援助協力を行い理解・納得していただけるよう対応している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者に対し生活の中で、言い出しやすい状況を見定め不満・苦情等を聞いている。苦情・意見等があれば早々に管理者等と話し合い対応している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>おおたの郷たよりを毎月1回発行し、各担当職員が近況報告・健康状態及び日頃の生活をスナップ写真として月々の請求書と一緒に家族に送付している。また、変更事項等がある場合は電話連絡を行い対応している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族へ便りを送付する際に家族の事業所に対する要望・意見を返信用紙にて聞いている。また、運営推進会議や家族会においても意見を聞き、運営や介護に反映している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度、職員全体参加の会議を開催し、研修や研修発表等を行い、意見や要望・提案など何事も話し合える場を設け運営に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>月二回、ユニットの代表・管理者・運営者が管理者会議として話し合いをもち、状況の変化・要望・勤務の調整等を協議し対応を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設時より職員の異動は少なく、ユニット毎の異動はあるが、利用者との交流があり関係は継続できる体制である。また、新しい職員が入る時も食事作り、おやつ作りなどを一緒に行い、利用者よりホーム内の事や物の置いてある場所を聞く等の工夫をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験や習熟度等を勘案して、職員とも話し合いながら年間の研修計画表を作成し、各職員の介護技術の向上に活かしている。また、研修後には全体会議にて発表をして報告している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年数回、同業者が参加しての協議会や各職員の研修も頻繁に行い、質の向上を目指し交換研修や交流を持つことにより各同業者が共有して、実りあるネットワーク作りが出来るように取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者や管理者が個々の職員に対し、悩みや各ユニットスタッフ間の状況等を聞く機会を設け、職員同士の人間関係を把握するようにしている。時折親睦の場を設け、運動等気分の転換が図れるように配慮している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、各職員に対し実績や勤務状況を把握し、本人に対し評価・講評を行い、向上心をもてるよう努めている。一人ひとりが目標を持って働けるよう自己評価や目標を決め、面談やアドバイスをを行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前面接時に、ご本人と話し合いをもち、身体の状況・不安・要望などを聴き受けとめ、初期の支援時は不安を解消できるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接時に、ご家族と十分な話し合いを持ち、不安・ホームに求めることを理解して、利用開始後のケアに取り入れている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、出きる限り本人・家族と話し合いをもち、希望や要望を最優先し、必要があれば市役所担当課・包括支援センターや医療機関と連絡を取り対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用が始まる前に家族と一緒に来所していただき、見学や利用者さん達とお茶の時間を一緒に過ごす等、環境になれてから入居するようにしている。また、職員が自宅訪問し、本人の意向を十分に把握するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を通じて、培った事を出きるだけ多く活動(家事・畑仕事等)に取り入れ「昔取った杵柄」で共感できる場面作りに努めている。また、職員は出退勤時、「ただいま」「行って来ます」と不安を与えないような声掛けで出入りし、和やかな生活が出来ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の情報交換や、月一回のお便りに職員が書いた利用者の様子や思い及び写真を添付し、日頃の生活状況を理解していただき協力関係が出来ている。また、行事等への参加も促し、利用者・家族が共感し合える場も築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常的に生じた課題には適時、家族と話し合いをもち一緒に解決できるよう努めている。外出・外泊等利用者の状況を見ながらご家族さんに働きかけを行ったり、本人さんの思いをご家族さんに伝える等交流の働きかけを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等での活動企画には、出来る限り利用者の行きたい場所を聞いたり、故郷方面へ出掛けるようにしている。また、以前生活していた近隣の方々・親戚・知人等が面会に来られ、交流が図れるように働きかけを行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の役割を分担し、食器を洗う人、テーブルを拭く人、お絞りを巻く人等、利用者の心身の状態に応じて、役割を実施してもらうよう心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	各サービス機関との連携がとれるよう家族、各サービス機関担当者との話し合いを必ずもつようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中では行動の説明をしたうえで選択できるような問いかけで、「どうですか？」等の強制的にならないような声かけを心掛けている。また、暮らしの中での行動を把握し、気づきノートを活用し日々の介護に活かしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時、家族や関係者に聞き取りを行い、日常のコミュニケーションを通じて、生活の背景や本人が抱えている思いを探れるよう、傾聴に心掛けている。また、家族の面会等に、家族からも生活背景等を聞けるように家族とのコミュニケーションに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	”気づきノート”を通じて、その日の利用者の情報を交換し、その方の行動や活動を把握し、ミーティングの中で利用者の方々が各活動や役割が一日一回は出来るよう、その方の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画における要望書はもとより、日々のミーティング、サービス担当者会議を定期的に行い、”家族の思い”や職員が感じとる”本人の思い”を反映できるように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	気づきノートの活用やサービス担当者会議等により常に変化に応じた介護への取り組みを行っている。入院等の場合は、入院の経過や利用者の状態変化がわかるよう、出来る限り医療機関へ経過説明に参加したり、家族との情報交換に努め適時計画している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	”気づきノート”を通じ、気づいたことや行ったこと、注意する点、薬の変更等を適時、新鮮な情報を毎日交換し合い、計画や実施に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する老人ホームでのリハビリ機器を利用して機能訓練を行ったり、ホーム所有の畑での農作業とできる限り要望を活かし支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員に運営推進会議の参加をしていただき、地域消防団員に緊急時の対応の協力を得ている。利用者の意向で、カラオケを行う際は地域のボランティアの方が参加され楽しく交流がなされている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	会合の参加や機会を設け地域のケアマネジャーと交流し情報を交換している。また、他施設で開催しているイベントや行事等にも参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議でも包括支援センターの方々に参加していただき、話し合いを重ね運営の向上に努めている。個々に必要だと思われる事柄は、支援センターと解決に向け協議し協力を得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の面接や面会時に、利用者・家族の希望を重視し、納得した病院に受診している。長距離になる場合もあり、かかりつけ医と連絡等を取り合い、家族も交え適切な医療支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の認知症専門医に受診し、状態の変化・急変時は電話にて対応を協議し適切な治療・対応ができるよう協力を得ている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常駐し、利用者・職員からの相談、日頃の状態観察、体調の急変等の対応を行い、必要な事柄はかかりつけ医や家族に連絡して話し合い、適切な支援ができるよう努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、医師からの説明がある際は、家族と共に職員も同席し、情報交換・機能訓練の方針・受け入れに対するの対応準備等を話し合い、早期退院に向け職員間同士でも協議し速やかな退院支援を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けたホーム独自の方針を定め、面会時重度化になっていく対応や処置を家族と話し合っている。受診する際も、かかりつけ医と相談し助言をいただいている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	毎月の管理者会議等で、終末期における当ホームの医療環境や対応能力を協議したり、かかりつけ医や隣接する老人ホーム職員とも相談し合い、普段より家族に対し状態変化の説明を行い、気持ちや考えを聞いて、前向きに終末期に向け検討を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅から当ホームに入居する際は、家族や関係者をお願いして数回遊びに来ていただき、利用者や環境に慣れていただくよう配慮している。また、以前の生活環境、支援の内容や情報を得てその方にあった環境を提供出来るように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・日頃の排泄パターンや動作などのタイミングを気づきノート等に記入して、職員間で共有しトイレ誘導に役立てている。食事後、特に朝食後は、排便のリズムを作るため訴えが無くてもトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴状況を把握しやすいようチェック表を活用し、毎日の入浴の声かけを行っている。入浴されない方については清拭、足浴(竹酢)を対応している。また、入浴剤や季節に応じて湯船にカボス等を浮かべ入浴の楽しさや興味が得られるよう努めている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分のリズムで昼寝等を行っていただき、希望があれば遮光カーテンを利用し安眠できるよう配慮している。不眠事は昼間の活動を多くする等の工夫、湯たんぽの提供や利用者と温かい飲み物を飲んでしばらく一緒に過ごす事などを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業や畑仕事に従事してきた方が多い事から花壇や所有の畑を利用し園芸や農作業に携わる活動を多く取り入れ、日常には女性が培ってきた事を参考に炊事、洗濯、裁縫(雑巾縫い)等を職員と一緒にやっている。役割を終えた際は感謝、労いの言葉を必ず伝えるようにしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員のサポートで金銭管理ができる方は、お小遣い等を持っていただき、お宮参りの賽銭や近隣へのドライブ・買い物等にお連れした際は、ご自身で買い物をしていただくよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から玄関等は施錠しておらず、何時でもご自身の意志で外出できるようにしている。また、職員と車で買い物・畑仕事等にも出かけ、近隣では季節に応じてつくし取り、ヨモギ摘み、わらび、ぜんまい、たけのこ取り等折々にふれ出かけ、飛行場、海や市内(難めぐり)等のドライブも出かけ、歩けない方も車椅子にて対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族同伴ドライブ旅行の開催や、海での魚釣り、保養施設での演劇鑑賞など個別対応や家族の協力を得て、近隣以外の外出支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ラウンジに電話を置き、何時でも家族や知人と連絡できるように配慮している。ご家族・知人に手紙・はがきを出されるよう支援を行い、またご家族さんより手紙を通じて衣類、日用品を送ってもらう等支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホーム便りを通じて行事のご案内や写真で日常生活を伝え、家族も気軽に訪れ参加できるきっかけを作っている。また散歩等で近隣の方々への挨拶の徹底で、気軽に訪れる雰囲気づくりに努めている。また、面会時は知人・ご家族さん達とゆっくり過ごせる場も来訪時に提供できるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝の申し送り時、ミーティングを行い入居者の状態・ケアの振り返りや反省、実行するケア・リハビリ等チェックをしながら身体拘束にも注意を払っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々の暮らしの中で鍵をかけない事をモットーにして、外出・帰宅願望のある方たちの気分や状態を把握し、介護者同士の協力により見守りの徹底を図り、外に出ようとされる時はさり気ない声がけや一緒に散歩するなど行動の制限をせず、安全面等に配慮して自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は見守り当番を決め、利用者の所在確認や、その時々の変化を職員間で情報交換している。利用者の動きが見渡せる位置で記録物の記載や見守りに努め、夜間は定期的な巡視を行い状況に応じてユニット間で対応の協力を行っている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤は手が届かない場所で管理。包丁等の危険物はいつでも使えるが職員の目に届く場所で管理。夜間帯のみ鍵がかかる場所へ。洗剤・ハサミ・裁縫道具等は簡易式の鍵にいつでも利用者が取り出せるようにしているが、職員が気を配り・点検し危険がないように対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、食事の状況・薬の服薬(朝・昼・夕等で薬袋の色分けをしている)・リハビリ(機能向上訓練)に取り組みリスク防止に努めている。また、毎月リスク委員会を実施し、その月に起こったヒヤリハット・事故報告書を基に検討し、必要があれば家族に説明を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力ですべての職員が救急救命講習に参加して学習・訓練を定期的に行っている。また、緊急対応のマニュアルやAED・吸引機等を整備している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回以上、消防署の協力を得て火災避難訓練を実施している。尚、消化器の使用法や緊急時連絡網の確認を定期的に行い、近隣の消防団員の方々にも協力を得ている。また、職員全員が救急救命講習に参加し万が一の対応に備えている。備蓄については、自家発電機により水・電気が確保でき、食料はホーム内にて保持している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時の折りに施設での生活状況、変化等を話し起こり得るリスクについての説明をし、万が一事故発生した時は、電話にてお知らせし相談しながら対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェック等行ない、一人ひとりの変化を知り病院受診時かかりつけ医に報告、相談を行い早期発見につなげ、気づいた事や変化があれば職員間で共有して対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等をコピーして、ケース記録に整理し、変化があれば印や説明を付け加えて体調変化や処方変更がわかるようにしている。毎月の受診時に持参して状態の経過・変化をかかりつけ医に伝え医師の指示を記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	当ホーム所有の田・畑で栽培した野菜を豊富に取り入れた食事(便秘を考慮した)を提供している。便秘気味の方は、冷水・牛乳や寒天・豆乳を取り入れ、腹部のマッサージや散歩を実施し便秘解消に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎月感染委員会を実施し、その中で口腔ケアの対応や状況を話し合い検討し、毎食後、職員が個々に応じた働きかけや介助を行い、就寝前は義歯の洗浄を必ず行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立を記録して、個々に応じた食事を提供し(茶碗類は馴染みの物を使用)、個々のケース記録に摂取量(主食・副食)、水分の摂取量・気づきノートに好みを記入し職員間で共有している。また、定期的に栄養士にお願いして栄養バランスやカロリーのチェックも行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所・県(高齢者福祉課他)・市より送られてくる情報を考慮して、感染症のマニュアルがあり、毎月の感染委員会で手洗いうがい等をチェック表にて評価し感染防止や早期発見に努め、面会者や家族に理解をいただき手洗いうがい等を実施し、インフルエンザ・感染予防等も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に冷蔵庫の整理、布巾・まな板・鍋類・たわし類・水回り品等を漂白し、衛生が保たれるよう職員間で徹底・実行し、出来ているかをチェック表に記入し毎月の感染委員会で検討を行っている。また、新鮮な野菜はいつもあり、他の物は買い貯めしないようにも努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの表示も最小限に抑え玄関周りに植物を植え、気軽に訪れていただける雰囲気を行っている。尚、ベンチ等を設置しホーム内外でも近隣の方と交流がもてるよう配慮している。面会簿は、一名に対し一枚とし訪問された方のプライバシーを保護し、安心して訪問していただけるよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇や菜園で季節の野菜、花の育成を行っている、ウッドデッキでは景色を楽しみながら余暇を過したり、行事食を行う等活用している。出来るだけ景色が楽しめるよう椅子を配置する等、地域的な環境を活かせる工夫に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	趣味活動ができる音楽機器(カラオケなど)の設置や、観賞魚を楽しんだり、雑誌を置く等した空間、和室(畳、こたつ)を設け、各所で各々の余暇が過せるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約・面会時、家族に極力馴染みの物品等を持ってきていただくよう促したり、利用者が趣味活動で制作した手芸等を飾り付けたりし、安心して過ごせるよう努めている。また、職員間でその方の生活歴や日常の会話の中で得た情報も活かし、居室作りに役立てている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ等の臭いが発生しやすい場所は入念な清掃をし、換気も屋根に抜ける吹き抜けを設け気配りを行っている。温度調整は利用者の状態により注意をして換気や調整を行い、エアコンに加湿器を併用する等季節を通じて快適に過ごせるよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、浴室、トイレ等に適材適所に手すり、滑り止め(床材等)等の共通した設備と、個々の身体機能に応じた日用品の選択(使いやすさ)や掲示物の位置(高さ等)、廊下など動線に障害物を置かない等の生活に支障を来たさない配慮に努めている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	掲示物は利用者の目線で確認出来るよう明確に示したり、居室は家族等の写真、個々の生活に身近な物を置く等、自分らしい部屋(認識しやすい)作りを行い、それぞれ違う日用品(茶碗等)の購入で個性が出せるよう配慮し混乱を招かないよう努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの中庭・玄関先には、花壇を設け花や野菜を育てている。ウッドデッキ・玄関先を利用し、四季折々の飾りつけ(門松・クリスマスツリー等..)を入居者と一緒に行い、楽しんで活動できるよう工夫を凝らしている。またそれぞれの場所にはいつでも休め、憩えるよう、いすやベンチを設置している		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑いっばいで何所に行っても自然があふれる中におおたの郷はあります。自由に散歩や畑仕事・花壇の手入れ等が行え、日常生活の中でも利用者さん中心の活動が行われていて、ホームにはたくさんの笑顔や笑いがあふれています。職員は本当の家族のように利用者さんの気持ちに寄り添い、たくさんの思いをこめてお世話をさせていただいています。